

UD トラックス、中型トラックの CKD 生産を開始

UD トラックス株式会社(本社：埼玉県上尾市)は 2018 年 6 月 22 日、マレーシア市場の輸入・卸売り販売会社である Tan Chong Industrial Equipment Sdn Bhd(TCIE 社)を通じて、同国向けに中型トラック「クローナー」の現地組立生産(CKD 生産)を開始したと発表した。「クローナー」の CKD 生産は海外で初めてとなる。そのため、戦略的な価格で、高い性能のトラックを顧客に提供することが可能となる。

生産パートナーである TCIE 社は 1978 年以来、約 40 年に渡り、マレーシアで UD トラックスの輸入・卸売り販売を手掛け、累計販売台数は 45,000 台に達している。2016 年からは 150 万リンギットを投じて、大型トラック「クエスター」の SKD 生産を開始、現在は CKD 生産へと移行している。「クローナー」の CKD 生産開始に際しては、生産拠点に 450 万リンギットを追加投資した。UD トラックスは、技術共有とトレーニングの実施によりエンジニアリングを強化、また生産に必要なとされる効率的な施設マネジメントにも貢献する。

国際食品飲料展示会、日系企業も出展

2018 年第 19 回マレーシア国際食品飲料展示会(MIFB2018)が 6 月 27 日から 29 日まで、クアラルンプール・コンベンション・センター(KLCC)で開催された。

マレーシア国内企業のほか、日本や中国、タイ、韓国、インドネシアなど 50 カ国・地域から約 550 社が出展し、来場者は昨年を上回る 2 万人以上となった。

7 か国の国際パビリオンが設置されたが、今回、日本パビリオンは設置されなかった。しかし日系の食品関連設備・用品や食品メーカー 8 社ほどが出展した。

防災力強化プロジェクト、JICA と東北大学が開始

国際協力機構(JICA)は、セランゴール州政府と東北大学災害科学国際研究所(IRIDeS)と協力して、草の根技術協力事業「地域コミュニティの安心と安全向上のための災害リスク理解に基づく防災力強化プロジェクト」を開始した。

同プロジェクトは 2018 年 6 月から 2022 年 8 月までの 4 年 2 か月にわたり、事業費概算額は 79,485 千円。セランゴール州の対象 2 郡から各郡 2 コミュニティを選定し、セランゴール州のモデル地域における災害リスク理解に基づくコミュニティ主体の防災体制の確立を目指す。

マレーシアでは防災法が未だに存在していないこともあり、州、郡、コミュニティレベルの自らの防災対策の強化が重要で、その中でも地方の防災関連部局が災害リスクを過去の資料やデータに基づいて正確に把握し、その情報をコミュニティと共有することにより、災害リスクに対する共通の理解を構築する必要がある。その上で災害リスク軽減のための自主的な防災活動を率先できる地方自治体とコミュニティリーダーの人材育成、また、地域住民主体で持続的に防災活動が行えるようになる体制を早急に確立する。

コマツ、UMW と建設・鉱山機械販売の合弁設立

コマツ(本社・東京都港区)は7月2日、マレーシアにおけるコマツの建設・鉱山機械の販売代理店である UMW Corporation Sdn Bhd(UMW)と同国の代理店事業の共同経営のため、合弁会社を設立することで合意し、正式に契約を締結した。この新会社は UMW 傘下の子会社となり、コマツはその株式の26%を取得する。

UMW はこれまで50年以上にわたりマレーシア市場でコマツの建設・鉱山機械の販売を行ってきた。新会社設立により、代理店とメーカーのより密接な連携のもとに、マーケティングおよびプロダクトサポートを強化することで、同国における建設・鉱山機械の一層の販売・収益拡大を目指す。なお、UMW はマレーシアの他にシンガポール、ミャンマー、パプアニューギニア、ブルネイでも代理店事業を展開しており、これらも新会社の傘下に入る予定である。

三井住友海上出資の Hong Leong Takaful、生命タカフル専業に

MS&AD インシュアランス・グループの三井住友海上火災保険(本社：東京)は、同社がマレーシアで出資する Hong Leong MSIG Takaful Bhd(35%出資)について、現地法改正に伴う生命タカフルと損害タカフル兼営の分離化に対応し、2018年7月1日付で生命タカフル事業を専業とすることに合意した。

タカフルとは、金利や投機等を禁ずるイスラム(シャリア)法に則った相互扶助を趣旨とした、イスラム圏における保険制度のことである。

損害タカフル事業については、現地監督当局の指導の下、他の損害タカフル専業社への事業移転を行う予定である。なお、マレーシアにおける損害保険事業会社である MSIG Malaysia 社、同社出資先の生命保険会社 Hong Leong Assurance Bhd(30%出資)の事業展開や、同社と Hong Leong グループの戦略的提携には変更がない。

ゲオ、マレーシアで中古衣料の卸売事業開始

株式会社ゲオホールディングス(本社：愛知県名古屋市中区)の子会社であるマレーシア現地法人 2nd Street Trading Malaysia Sdn Bhd は、2018年7月9日よりマレーシア国内にて古着の卸売事業を開始すると発表した。また、同国に東南アジア初出店でマレーシア1号店となる「2nd Street SS13」(セカンドストリート SS13 店)をオープンし、小売りも併せて行う。

ゲオは全国の総合リユースショップ「セカンドストリート」など約590店で衣料品・服飾雑貨品を買い取っており、店頭で再販しきれなかった在庫は専門業者を通じてアジアや中東、アフリカなどの国々に中古衣料として輸出する他、工業用雑巾(ウエス)や固形燃料などにしてリサイクルしている。マレーシアは中古衣料の認知や日本からの輸入実績、国外への輸出実績が高く、同国進出により周辺諸国への販路拡大も見込めるとしている。

また卸売り倉庫の一角に東南アジア初出店でマレーシア1号店となる「2nd Street SS13 店」を併設し小売りも行う。卸売り取引を検討している企業に向けたショールームとしての機能を持つとともに、一般顧客も利用できる環境を整え、マレーシア国内での同社のリユース商品ニーズや、日

本で培ったリユース事業の特長やノウハウを生かせるかなど、今後の事業拡大に向けた調査を行う。

郵船ロジスティクス、マレーシアでコールドチェーン新会社を設立

郵船ロジスティクス(本社・東京都港区)は7月12日、同社マレーシア法人の Tasco Bhd(TASCO 社)はコールドチェーン事業を展開する子会社 Tasco Yusen Gold Cold Sdn Bhd(TYGC 社)を設立したと発表した。

TASCO 社は、アセアン域内での生鮮品を含む食料品、飲料、医薬品等の品質を維持した三温度帯輸送・保管の需要の高まりを受けて、マレーシア国内でコールドチェーン事業を展開する Gold Cold Transport Sdn Bhd 社(GCT 社)と MILS Cold Chain Logistics Sdn Bhd(MCCL 社)を買収する契約を昨年1月に締結した。その後、手続きを進め、GCT 社は昨年7月に、MCCL 社は今年6月初旬にそれぞれの買収を完了した。コールドチェーンサービスの更なる拡大を図るため、事業を一元管理する子会社 TYGC 社を設立し、GCT 社と MCCL 社を傘下に置いた体制での運営を開始した。GCT 社はマレーシア国内のコールドチェーン業界売上第2位の規模で、約31,000 m²の冷蔵・冷凍倉庫と約200台のリーファートラックを有する主に冷蔵・冷凍食品を扱う物流会社である。難易度の高いといわれているアイスクリームの取り扱いに関しては国内の約80%のシェアを有しており、高品質なサービスを提供している。

また、MCCL 社はマレーシア国内のコールドチェーン業界売上第10位の規模で、クラン港の Westport に隣接したエリア内で冷蔵・冷凍倉庫(約7,000 m²)のオペレーションを行っている。

当該エリアは全て Free Commercial Zone で、税関や港湾局にも隣接する好立地。TASCO 社は MCCL 社の買収に加えて、上記冷蔵・冷凍倉庫および同エリアの広大な敷地(約16万 m²)と常温倉庫(約23,000 m²)についても、買収を完了した。これら2社は共にマレーシア政府の認証機関であるマレーシア・イスラム開発局(JAKIM)から倉庫内全域でハラール認証を取得しており、同国内におけるハラール食品のコールドチェーンサービスの提供が可能である。TYGC 社は今後、マレーシア国内の低温物流サービスに留まることなく、郵船ロジスティクスのグローバルネットワークを生かし、海上・航空輸送におけるコールドチェーンサービスを展開していくことで、事業拡大を図るとともに、顧客にワンストップのコールドチェーンサービスを展開していく予定である。